

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2772401028
法人名	医療法人みどり会
事業所名	グループホームたんぽぽ
訪問調査日	平成20年4月15日
評価確定日	平成20年5月21日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2772401028		
法人名	医療法人みどり会		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	枚方市長尾北町2-1846-1 (電話) 072-868-2195		
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年4月15日	評価確定日	平成20年5月21日

【情報提供票より】(平成20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	25,200 円	
敷金	有() 円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() ○ 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり			円 月額 66,780 円

(4) 利用者の概要(7月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	84, 8 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人みどり会中村病院 北野歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立(平成12年)当時から在籍の職員の割合が多く、その平均年齢が50才台という故もあり、経過8年の中で培われた落ち着いた雰囲気があるホームである。介護職員の5人が常勤、パート2人という比較的余裕のある人員配置がある。常勤5人夫々の担当制(会議計画)により、利用者に向き合う、関心を寄せるとしたところからの、「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」のきめ細かいケアが行われている。同法人併設の老健施設が隣接しており、常勤看護師による医療的分野での相談・指導を適宜・適切に活用できることは、利用者・家族にとって心強いことである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題「地元への積極的働きかけ」については、平成19年7月の管理者交替もあり、大きな進展はみられない。が、運営推進会議メンバーの地元代表者の紹介で、近在の農園との交流の実現があり、同建物2階に3月開所の保育所園児や保護者との関わりが生じるなど、今後に期待するものがある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	常勤者5名が手分けしての自己評価表記入を行うなかで、評価の意義を理解し改善課題に気づいた。全体的には、話し合いにより管理者がこれらをまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	従来の構成メンバーには地元代表が一人であったが、2ヶ月に1回訪問する市相談員の加入を要請し受け入れられた。相談員としての経験・情報が豊富であり、地域へのアプローチについても具体的な助言、協力が得られつつある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者家族の約半数が市内在住である。比較的頻度の高い来所があり、種々の意見を丁寧に聞き取り、「生の声」を生かしてミーティングやスタッフ会議での課題として取り上げるなど、積極的に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買い物外出など日常的な外出を通じてのつながりはあるが、自治会・老人会などとの交流はこれからの課題である。運営推進会議で地元中学生の職業体験実習の受け入れの提案もあり、就任1年未満の管理者と従来からの職員との今後のチーム力に期待するところである。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民の交流の元で とする事業目的はあるが、理念として独自の・具体的な表現にはなっていない。	○	生活圏域でその人らしい暮らしを支えるという地域密着型サービスの本質について、職員同士の話し合いとそこから生まれる職員の言葉での理念が、作り上げられることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」を理念にして、日々の実践・反省・話し合いに取り組んでいるが、“地域交流”についての具体的な理念の共有が不足している。	○	実践の中から話し合い、作りあげる地域密着型サービスの理解と理念の共有が充実できれば、グループホームたんぼぼとしての存在価値は一層高まるであろうことを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りに参加するなどの交流はあるが、地元自治会・老人会などとの積極的な交流は図られていない。	○	市相談員の助力を得て、地元老人会へのアプローチを試みようとしている。今後は、併設保育所の園児や保護者との交流をきっかけにして、地域への働きかけを深めることを希望する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	常勤者5人は、自己評価表の記入を分担し、話し合うことにより、評価の意義を理解し日々の実践内容への気づきを促す機会とした。管理者自身もこれらを纏めることにより、重要課題を把握しその改善に積極的に取り組もうとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的会合開催と議事録は完備している。構成員に地元からの参加が一人のみでは、地域に根ざした事業所運営は進展しにくいと考える。	○	運営推進会議をよりよくホームの強い味方とするためにも、地元自治会・老人会・婦人会・民生委員・校区福祉委員などの参加要請に力を注ぎ、尚 市内ボランティアグループ・NPOなどの団体への呼びかけも試みるべきである。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の受け入れに際し、法的な判断について相談したり、各関係方面の情報入手について力を借りるなどの協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の約半数が市内に在住しており、面会の機会も多いので利用者の様子などは個々に報告している。その他については、月に1回近況報告を送付し、必要に応じて電話での相談・報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の対話による意見・苦情は日々の申し送りに伝達し、月1回のスタッフ会議での課題として取り上げるなど、シフト制の弊害を考慮しながら運営への反映に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤5名・パート2名の比較的余裕のある人員体制のなかで、現在のところ異動による影響はない。将来的には、法人内異動も含めて影響の無いようにきめ細かい配慮を心掛けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は併設老健施設との研修会には必ず参加、研修内容によっては職員も参加している。資料・内容は閲覧するようにしている。各種外部研修の情報収集に努め、職員が積極的に参加できる機会を増やしたいとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括圏域の4ヶ所のグループホームによる交流会が2ヶ月に1回あり、相互の見学会や勉強会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	19年度の新規入居者は4人だったが、うち2名は併設の老健施設とケアハウスからの入居だった。個々の抵抗はあったが、利用者のサイン・訴えに丁寧に対応することに心を砕いた。夫々の日数を要しながら落ち着いた日々を送るようになった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	節度をもって家族のように接しながら、認知症への理解を深めつつ、ゆっくり・一緒に・楽しく・日々の暮らしを支えるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での小さな呟き・仕草からのサインや気づきを見失うことのないよう、関心を寄せること努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	原案作成→説明→了解のプロセスを経て計画をつくり、カンファレンス・モニタリングでこれを補い、より実践的な介護計画をつくりあげている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常勤5人の担当制で、モニタリングでの新しい発見などによるケアへの更なる意識づけがおこなわれ、スタッフ会議での話し合いで見直しを重ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列病院・協力歯科医の受診に同行し、利用者の日常を熟知している立場からの状況説明を丹念に行うとともに、医療側からの情報・助言を正確に受け止め介護に役立てるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する固有のかかりつけ医への受診は、当然認められることであり、利用者に関する情報交換などの関係作りには十分配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取り・重度化への対応についての指針を明示し説明して理解を得ている。現実的には、系列病院からの往診・訪問看護はうけられるが、医療費負担の問題や職員の意識やケアの限界もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常、家族としての対話での“言葉づかい”、排泄・入浴時の対応についても留意している。自己チェック表と管理者との面談などを通して、利用者の尊厳についての意識づけを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭での普段を大切にする、を前提にした観察や判断を基に、利用者とともに日々の暮らしのリズムをつくっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接する老健からの配食を利用しているが、月に2回は利用者の好みによる料理作りや外食を楽しむ機会を設けている。調査日当日は、お揃いのエプロンをつけての調理を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数は週に2回、3人ずつの交代制で入浴を行っている。夏場には必要に応じてシャワー浴の回数を増やしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることをやってみる、出来ることに喜びを持つように、計算プリント・漢字プリントへの取り組みを試している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節・天候に合わせて、声かけをし誘い合わせて戸外へ出るようにしている。近くのコンビニや車でスーパーへの買い物にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。出入りにはチャイムが鳴るようになっている。万一の外出に備えて、写真・特徴などを記載したシートを作成したいとしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルを作り、隣接老健施設へ避難誘導をすることになっているが、避難訓練は行われていない。	○	避難訓練は早急に実施されたい。消防署・警察などの協力を得ることが必要である。運営推進会議を通じて地域の協力体制も検討を進められたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理と超刻み食への支援は併設の老健施設に依存している。職員の日々の観察と記録で利用者個々の状況を把握し、必要な人、必要な時期には水分摂取に留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光もよく、こじんまりとした食堂兼居間には適度な飾りつけがあり、落ちついた雰囲気がある。浴室・トイレ・洗面所なども清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン・床暖房・低床ベッドは設備として整えられている。箆笥・テーブルなどの持ち込みもあり、夫々の暮らしが垣間見える居室風景である。		